

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	米田柔整専門学校
設置者名	米田学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	柔道整復科第1部	夜・通信	112	9	
	柔道整復科第2部	夜・通信	110	6	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考) 学年によって同一名称の科目で講師が異なるため、別紙参照。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

事務局に設置する刊行物による公表。名称：2019年度米田学園公開情報
------------------------------------

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	米田柔整専門学校
設置者名	米田学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

事務局に設置する刊行物による公表。名称：2019年度米田学園公開情報

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	社会保険労務士	2019. 6. 1～2021. 3. 31	コンプライアンス
非常勤	ジャーナリスト	2019. 6. 1～2021. 3. 31	社会貢献・地域貢献
非常勤	歯科医師	2019. 6. 1～2021. 3. 31	防災・BCP
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	米田柔整専門学校
設置者名	米田学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画の作成・公表に係る取組の概要)	
【授業計画(シラバス)の内容】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業科目名</li> <li>・ 担当学年</li> <li>・ 教育方針と目的(学習の到達目標)</li> <li>・ 教育項目・範囲(要点)</li> <li>・ 成績評価</li> <li>・ 教科書</li> <li>・ 参考書</li> <li>・ 授業計画(回数、授業の概要)</li> <li>・ 実務経験のある教員による授業科目(実務経験の具体的内容、関連性)</li> </ul>	
【授業計画(シラバス)の作成過程】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務が全体会議にてシラバス作成について説明</li> <li>・ 事務がシラバス様式一式を確認</li> <li>・ 事務が全教員にシラバス作成を依頼 <ul style="list-style-type: none"> <li>*シラバス作成を依頼する際、学生に対して年2回実施する授業アンケートを基に授業内容の改善を図るよう各教員へ促している</li> </ul> </li> <li>・ 全教員が事務にシラバスを提出</li> <li>・ 教育課程編成委員会がシラバスを点検し、記載事項に不備があるシラバスの再提出を依頼</li> <li>・ 該当教員が事務にシラバスを再提出</li> <li>・ 教育課程編成委員会がシラバスを再点検</li> <li>・ シラバス完成</li> </ul>	
【授業計画(シラバス)の公表時期】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2019年度においては7月25日に公表</li> </ul>	
授業計画の公表方法	事務局に設置する刊行物による公表。名称:2019年度米田学園公開情報
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>下記内容を年度初めのガイダンスにて学生心得として学生に配布及び説明を行う。成績評価の基本は年 3 回の定期考査となるが、一部実技の授業などでは授業内に試験を行うこともある。進級不可となった場合は未成年者では保護者同席のもと申し渡しを行っている。</p> <p>〈成績評価〉</p> <p>定期考査の年間平均点が 65 点以上ある場合は当該授業科目の単位を履修すること</p> <p>当該授業の年間授業日数の 70%以上を出席していること</p> <p>この両者が満たされた場合は当該授業の単位を認定する。</p> <p>必修単位制として各学年においてすべての授業科目の認定を受けることを必須としている。進級及び卒業の認定は、学業成績及び単位の修得ならびに出欠状況等により教務会議を経て校長が認めるが、次の各項に該当する者は原級留置とする。</p> <p>1) 進級認定</p> <p>教務会の議を経て校長が認可する。但し、次の各項に該当する者は、進級できない。</p> <p>(1) 1年間で出席しなければならない日数の 3 分の 2 以上を出席していない者</p> <p>(2) 各授業の年間延欠課日数が全授業日数の 30%を超えた者</p> <p>(3) 当該学年で修得すべきすべての単位を修得していない者</p> <p>(4) 期日までに所定の学費を納入しない者</p> <p>(5) その他校長が裁定した者</p>	
<p>3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>科目ごとの成績評価を点数 (100 点満点) に換算した上で、取得した点数の平均を求める仕組みを導入している</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>事務局に設置する刊行物による公表。名称：2019 年度米田学園公開情報</p>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
<p><b>【卒業の認定に関する方針】</b>  柔道整復師として立派に社会に貢献できる礎として学業、実習を通して医療人としての最低限の規律、マナーを修得し、就業してからも周囲との協調性を重んじて自己中心的ではなく、全体最適の考えを尊重できる人材を育成する。また国家試験に対しては十分に合格し得る能力を身に付け、医療現場でのリスク管理を行えるように鑑別能力などを養う。柔道整復師として外傷を扱うための包帯技術の修得は必須であり、救急救命処置や各種評価法など医療人としての基礎を形成すること。</p>	
<p><b>【卒業認定】</b>  教務会の議を経て校長が認可する。但し、次の各項に該当する者は卒業できない。</p> <p>(1) 1年間で出席しなければならない日数の3分の2以上を出席していない者</p> <p>(2) 各授業の年間延欠課日数が全授業日数の30%を超えた者</p> <p>(3) 卒業までにすべての単位を修得していない者</p> <p>(4) 公益財団法人柔道整復研修試験財団が実施している認定実技審査に合格していない者</p> <p>(5) 期日までに所定の学費を納入しない者</p> <p>(6) その他校長が裁定した者</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	事務局に設置する刊行物による公表。名称：2019年度米田学園公開情報

## 様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	米田柔整専門学校
設置者名	米田学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	事務局に設置する刊行物による公表。名称：2019年度米田学園公開情報
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://yoneda.or.jp/">https://yoneda.or.jp/</a>
財産目録	事務局に設置する刊行物による公表。名称：2019年度米田学園公開情報
事業報告書	事務局に設置する刊行物による公表。名称：2019年度米田学園公開情報
監事による監査報告（書）	事務局に設置する刊行物による公表。名称：2019年度米田学園公開情報

### 2. 教育活動に係る情報

#### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療関係		医療専門課程	柔道整復科第1部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	153単位	127 単位	0 単位	4 単位	0 単位	22 単位
			153単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
270人		156人	0人	12人	45人	57人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式2号の3の1の様に、各教員がシラバスを作成し公開している。各学年担当が年度末に該当する学年の指導方針や方法を決定する。この方針は全体会議等、日々積み上げられた教務及び学校長の意見を踏まえ、年に数回実施する授業アンケートを極力取り込んだ講義を実施している。
成績評価の基準・方法
（概要） 定期考査の年間平均点が65点以上ある場合は当該授業科目の単位を履修すること 当該授業の年間授業日数の70%以上を出席していること この両者が満たされた場合は当該授業の単位を認定する。  必修単位制として各学年においてすべての授業科目の認定を受けることを必須としている。進級及び卒業の認定は、学業成績及び単位の修得ならびに出欠状況等により教務会議を経て校長が認める。

卒業・進級の認定基準			
<p>(概要)</p> <p><b>【進級認定】</b>            教務会の議を経て校長が認可する。但し、次の各項に該当する者は、進級できない。            (1) 1年間で出席しなければならない日数の3分の2以上を出席していない者            (2) 各授業の年間延欠課日数が全授業日数の30%を超えた者            (3) 当該学年で修得すべきすべての単位を修得していない者            (4) 期日までに所定の学費を納入しない者            (5) その他校長が裁定した者</p> <p><b>【卒業認定】</b>            教務会の議を経て校長が認可する。但し、次の各項に該当する者は卒業できない。            (1) 1年間で出席しなければならない日数の3分の2以上を出席していない者            (2) 各授業の年間延欠課日数が全授業日数の30%を超えた者            (3) 卒業までにすべての単位を修得していない者            (4) 公益財団法人柔道整復研修試験財団が実施している認定実技審査に合格していない者            (5) 期日までに所定の学費を納入しない者            (6) その他校長が裁定した者</p>			
学修支援等			
<p>(概要)</p> <p>学生が日々学校生活を送る中で学校が実施していること、基本的に学業に限らず職に関することも含まれる。            担任制の導入(複数人)により、学習に関することや学校生活に関すること等を相談することができる。            他、自己学習を行うことの可能なメディアセンターを開放し、設置してあるPCを使って、講義以外の時間帯に、必要な動画の視聴等も可能である。            教材(模型)は各自、申し出により利用することが可能であり、必要に応じて教員が指導を行う。            就職に関しても専門職員を配置し、面接・見学の調整や各学生に応じた履歴書の見直し、書き方の指導等を実施している。</p>			
卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
66人 (100%)	0人 (0%)	61人 (92.4%)	5人 (7.6%)
(主な就職、業界等) 病院、診療所、接骨院、スポーツトレーナー、介護施設			
(就職指導内容) 合同就職説明会、履歴書の添削、模擬面接、個人面談、個別相談			

(主な学修成果(資格・検定等)) 柔道整復師国家試験受験資格
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
195人	18人	9.2%
(中途退学の主な理由) 一身上の都合、体調不良、勉学意欲の低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 長期欠席者に対しては、欠席が連続した時点で本人または保護者に対して連絡を行い欠席理由を確認している。正当な理由なく欠席している学生に対しては、精神的な不安定さを改善するために本人と面談を行い、解決策を学生と共に考え指導を行っている。成績不良者に対しては、補充講義を行うと共に学生に課題を与えるなど勉強のきっかけを与えるよう努めている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療関係		医療専門課程	柔道整復科第2部	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	夜	153単位	127 単位	0 単位	4 単位	0 単位	22 単位
			153単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		34人	0人	12人	40人	52人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式2号の3の1の様に、各教員がシラバスを作成し公開している。各学年担当が年度末に該当する学年の指導方針や方法を決定する。この方針は全体会議等、日々積み上げられた教務及び学校長の意見を踏まえ、年に数回実施する授業アンケートを極力取り込んだ講義を実施している。
成績評価の基準・方法
(概要) 定期考査の年間平均点が65点以上ある場合は当該授業科目の単位を履修すること 当該授業の年間授業日数の70%以上を出席していること この両者が満たされた場合は当該授業の単位を認定する。  必修単位制として各学年においてすべての授業科目の認定を受けることを必須としている。進級及び卒業の認定は、学業成績及び単位の修得ならびに出欠状況等により教務会議を経て校長が認める。



卒業・進級の認定基準			
<p>(概要)</p> <p><b>【進級認定】</b>  教務会の議を経て校長が認可する。但し、次の各項に該当する者は、進級できない。  (1) 1年間で出席しなければならない日数の3分の2以上を出席していない者  (2) 各授業の年間延欠課日数が全授業日数の30%を超えた者  (3) 当該学年で修得すべきすべての単位を修得していない者  (4) 期日までに所定の学費を納入しない者  (5) その他校長が裁定した者</p> <p><b>【卒業認定】</b>  教務会の議を経て校長が認可する。但し、次の各項に該当する者は卒業できない。  (1) 1年間で出席しなければならない日数の3分の2以上を出席していない者  (2) 各授業の年間延欠課日数が全授業日数の30%を超えた者  (3) 卒業までにすべての単位を修得していない者  (4) 公益財団法人柔道整復研修試験財団が実施している認定実技審査に合格していない者  (5) 期日までに所定の学費を納入しない者  (6) その他校長が裁定した者</p>			
学修支援等			
<p>(概要)</p> <p>学生が日々学校生活を送る中で学校が実施していること、基本的に学業に限らず職に関することも含まれる。  担任制の導入(複数人)により、学習に関することや学校生活に関すること等を相談することができる。  他、自己学習を行うことの可能なメディアセンターを開放し、設置してあるPCを使って、講義以外の時間帯に、必要な動画の視聴等も可能である。  教材(模型)は各自、申し出により利用することが可能であり、必要に応じて教員が指導を行う。  就職に関しても専門職員を配置し、面接・見学の調整や各学生に応じた履歴書の見直し、書き方の指導等を実施している。</p>			
卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17人 (100%)	0人 (0%)	15人 (88.2%)	2人 (11.8%)
(主な就職、業界等) 病院、診療所、接骨院、スポーツトレーナー、介護施設			
(就職指導内容) 合同就職説明会、履歴書の添削、模擬面接、個人面談、個別相談			

(主な学修成果(資格・検定等)) 柔道整復師国家試験受験資格
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
41人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>長期欠席者に対しては、欠席が連続した時点で本人または保護者に対して連絡を行い欠席理由を確認している。正当な理由なく欠席している学生に対しては、精神的な不安定さを改善するために本人と面談を行い、解決策を学生と共に考え指導を行っている。</p> <p>成績不良者に対しては、補充講義を行うと共に学生に課題を与えるなど勉強のきっかけを与えるよう努めている。</p>		

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
柔道整復科 第1部	300,000円	880,000円	440,000円	実習費、施設費
柔道整復科 第2部	300,000円	880,000円	440,000円	実習費、施設費
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

### b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ <a href="https://yoneda.ac.jp/">https://yoneda.ac.jp/</a>
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 米田柔整専門学校により実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて、本校の自己評価の結果を評価することを目的に設置する学校関係者評価委員会を設置する。実践的な職業教育機関としての専修学校が、社会全体の信頼を得ていく上では、関係業界等からのニーズを踏まえた教育活動等の評価や情報公開が、組織を改善するためのPDCAサイクルの中に位置づけられ、①教育の質の改善、②社会に対する説明責任、③学校評価を通じたガバナンス改善に向けた自主的な取組を促進していくことが重要となる。米田柔整専門学校の業務改善部の一角として学校関係者評価は重要な役割を担うため、多角的な視点から評価を行っていくこととする。実施方法は年2回(8月・3月)の会議を基本とする。
<p>&lt;学校関係者評価の活用状況&gt;</p> <p>学校運営についてキャリア教育がひとつ中心の考え方となるため、今後は学内だけでなく、学外での現場実習を視野に入れて企業連携を強化していくきっかけとなった。</p> <p>教育活動の評価項目では今後、臨床現場におけるキャリア教育を充実されるため、学内における接遇面を中心とした社会的マナー、法律面のコンプライアンス等の教育精度をより高めていただきたいとの意見があった。それに対して、実技講義を中心に接遇の評価項目を重要視することとした。</p> <p>また教育環境では学外実習の重要性を示されており、積極的な学外実習への取り組みの準備を進めることとなった。卒業してからの本校学生の質向上のためにも、学外実習は非常に意義のあるものだと考える。以前の会議では米田病院実習について意見を賜り、一人あたりの実習時間が少ないと指摘があった。今後講義との兼ね合いをみながら実習時間の見直しも検討して行くこととなった。また幅広い年代との卒業後の連携も期待されているため、セミナーなどを積極的に開催して多岐に渡る「つながり」を強化していきたいと考えている。</p> <p>学生の受け入れ募集では社会人向けの職業体験会の実施の提案があり、今年度から社会人の多い夜間コースに対して、夜間向けの学校説明会を別途開催する契機となった。全体的には学生の質の向上、学校外の施設との密な連携を求められているため、この2点を重く受け止め、学校改善につなげていく所存である。</p>

評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・ 学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・ 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li> <li>・ 教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・ 事業計画に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか有効に機能しているか</li> <li>・ 人事、給与に関する制度は整備されているか</li> <li>・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育理念等に沿った教育課程の編制・実施方針等が策定されているか</li> <li>・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・ 学科等のカリキュラムは体系的に編制されているか</li> <li>・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>・ 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・ 関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか</li> <li>・ 授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・ 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・ 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</li> <li>・ 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・ 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備え</li> </ul>

	<p>た教員を確保しているか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務)</li> <li>・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・教員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> </ul>

	・防災に対する体制は整備されているか	
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>	
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財産基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>	
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>	
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>	
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
公益社団法人 愛知県柔道整復師会	H30/7/19～R2/7/19	業界団体役員
杉うら・接骨院	H30/7/19～R2/7/19	卒業生
加納接骨院	H29/6/27～R1/6/27	卒業生
森ファミリー接骨院	H29/6/27～R1/6/27	企業委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ <a href="https://yoneda.ac.jp/">https://yoneda.ac.jp/</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

事務局に設置する刊行物による公表。名称：2019年度米田学園公開情報

## 第1部

### 科目・実務経験者一覽

基 礎 科 目	6単位
専 門 基 礎 科 目	42単位
専 門 科 目	64単位
合 計	112単位

実施必要単位153単位



## 第1部 基礎科目

科目名	配当学年	単位数	実務経験
体育	3年	2	<p>大学院在学時より現在に至るまでの30年近く、地域の健康教室で健康運動に関する講義・実技指導を幾度も行ってきた。現在は、安静時・運動時の姿勢が健康に及ぼす影響を中心に、毎年10月、11月の間で大学校にて健康運動に関する指導を行っている。</p> <p>・体育学士および健康運動指導士として、地域高齢者、一般社会人、高校生、保育園児などを対象とした健康運動指導教室の企画運営経験あり。</p> <p>・上級障がい者スポーツ指導員として、障がい者に対する運動指導経験有り。また、障がい者スポーツ指導員（初級・中級）の養成講習会において、トレーニング論を担当し、健康運動指導、トレーニング指導他の指導実績あり。</p>
心理学	1年	2	心療内科および心理判定員において各々3年間の実務経験あり。また児童福祉施設の心理主任として5年間の実務経験あり。
栄養学	1年	2	担当者は、特別養護老人ホーム、老人保健施設、総合病院において、栄養士・管理栄養士として献立作成、給食の調理、栄養の指導を実施していた。その経験を生かし、各疾患やライフステージも含めた実践的な栄養学の授業を行う。

## 第1部 専門基礎科目

科目名	配当学年	単位数	実務経験
運動学	2年	2	医療・福祉機関やスポーツ現場においてリハビリテーション治療や運動処方、栄養指導を実施している。
運動学	3年	2	医療・福祉機関やスポーツ現場においてリハビリテーション治療や運動処方、栄養指導を実施している。
病理学	3年	3	医療系の大学で疾病の基本的な知識としての病理学総論の講義、病理診断のための標本作製や細胞診断学の判定の知識や技術習得のための教育、さらに大学病院での実務経験もしている。
一般臨床医学	2年	2	総合病院において、研修医、小児科医として勤務した。
一般臨床医学	3年	3	<p>総合病院にて30年間の勤務経験あり。 腎疾患患者の外科・内科治療に従事。</p> <p>診療所や僻地診療の経験から、整形外科領域含め自身で対応困難な疾患を疑った際の紹介など。</p> <p>市民病院の外科副部長として勤務経験あり。現在、整形外科病院にて診療に従事している。</p>
外科学	2年	2	<p>総合病院にて30年間の勤務経験あり。 腎疾患患者の外科・内科治療に従事。</p> <p>市民病院の外科副部長として勤務経験あり。現在、整形外科病院にて診療に従事している。</p>

外科学	3年	3	総合病院にて30年間の勤務経験あり。 腎疾患患者の外科・内科治療に従事。
整形外科学	2年	3	整形外科病院にて脊椎専門医として、総合病院にて脊椎脊髄センター一部長兼整形外科部長を担当し、現在も数多くの外来・手術を経験しており、海外含め学会報告を多数行っている。
			32年間総合病院に勤務し、一般X線撮影検査、造影検査、CT・MRI検査、核医学検査、放射線治療、第3次救急医療などに携わってきた。
			臨床整形外科医として1993年より一般病院へ勤務しており、2003年より2019年現在まで常勤医として整形外科病院にて一般整形外科、スポーツ外傷、障害等の診療（保存療法、観血的療法）を行っている。講義内容は臨床経験より具体的症例を用いて作成している。
整形外科学	3年	3	整形外科、スポーツ医学において特にスポーツによる外傷、障害をテーマに医療の現場に関わってきた。またスポーツ現場での急性期の初期対応から、手術、リハビリテーション、その後のスポーツ活動プレー復帰までの医療サポートをした実務経験がある。障がい者スポーツ医としても毎年、指導者育成面で愛知県社会福祉協議会と連携している。
			整形外科医として現在も臨床に携わる。また大学で医学関係の講義を担当し学生・大学院生の指導をしている。
			整形外科全般・格闘技（コンタクトスポーツ）を中心としたスポーツ整形外科・骨粗鬆症・関節リウマチを中心に診察しています。バルセロナ・アトランタオリンピックでは、公式チームドクター（柔道）として、選手たちをサポートしてきました。
			32年間総合病院に勤務し、一般X線撮影検査、造影検査、CT・MRI検査、核医学検査、放射線治療、第3次救急医療などに携わってきた。
リハビリテーション医学	2年	2	医療福祉センター、医療型児童発達支援センター、小児科クリニックにて様々な障害を持つ(特に中枢神経系)発達障害児(者)に対して作業療法臨床を行っている。
リハビリテーション医学	3年	2	医療福祉センター、医療型児童発達支援センター、小児科クリニックにて様々な障害を持つ(特に中枢神経系)発達障害児(者)に対して作業療法臨床を行っている。
衛生学	3年	3	総合病院において、研修医、小児科医として勤務した。
公衆衛生学	2年	2	総合病院において、研修医、小児科医として勤務した。
関係法規	1年	2	平成19年4月より整形外科病院での実務経験あり。また、平成24年4月より保健所による立入検査や地方厚生局による適時調査を含めた行政等への法令手続に従事している。平成26年4月より米田柔整専門学校 講師就任。
関係法規	2年	2	13年間の整形外科病院での実務経験および保健所の立入検査を含めた行政等への法令手続に従事している。専科教員8年目。
柔道	1年	2	週4回の柔道部、週2回の少年柔道の指導を行う。
柔道	2年	2	週に1回、地域の柔道教室で指導を行っている。
柔道	3年	1	週4回の柔道部、週2回の少年柔道の指導を行う。
関係法規 (社会保障制度)	2年	1	13年間の整形外科病院での実務経験および保健所の立入検査を含めた行政等への法令手続に従事している。専科教員8年目。

## 第1部 専門科目

科目名	配当学年	単位数	実務経験
運動器学	1年	8	卒後6年、接骨院にて勤務。専任教員7年目。
			接骨院および学校専任教員として、10年以上の実務経験。現在、接骨院の院長として7年目の実務にあっている。
			・柔道整復師として病院勤務し、骨折、脱臼、打撲、捻挫、その他軟部組織損傷の治療に携わった。接骨院の管理柔道整復師として外傷、障害の施術に携わった。・柔道整復師養成教育には養成施設の専任教員、短期大学の非常勤講師として外傷学、診察実技・整復実技・固定実技・後療法実技、指導管理等の教育経験がある。・公認アスレチックトレーナーとして高校ラグビー、大学アメリカンフットボール部のチームトレーナー歴、県本部のトレーナー歴
			4年間、整形外科にて実務経験があり、学校附属接骨院にて3年間の管理柔道整復師としての実務経験がある。
骨・関節損傷学基礎	1年	2	4年間、整形外科にて実務経験があり、学校附属接骨院にて3年間の管理柔道整復師としての実務経験がある。
軟部組織損傷学基礎	1年	2	免許取得後に院長として接骨院で3年、教員免許取得後に教育をしながら非常勤にて整形外科に勤務した。また、冬期にはスキー場において毎週土日に救護活動を実施している。
評価と施術学基礎	1年	2	整形外科にて診察・整復・固定・検査など医師の指導の下、治療に携わった。
上肢の損傷学	1年	4	週5コマの柔道授業、週4回の専門学校柔道部稽古、週2回少年柔道稽古の中で外傷の応急処置や復帰のケアを行っている。試合や出稽古の際にも外傷の応急処置を行う。
下肢の損傷学	1年	4	平成19年4月より整形外科病院での実務経験あり。 平成26年4月より米田柔整専門学校 講師就任。
			・柔道整復師として病院勤務し、骨折、脱臼、打撲、捻挫、その他軟部組織損傷の治療に携わった。接骨院の管理柔道整復師として外傷、障害の施術に携わった。・柔道整復師養成教育には養成施設の専任教員、短期大学の非常勤講師として外傷学、診察実技・整復実技・固定実技・後療法実技、指導管理等の教育経験がある。・公認アスレチックトレーナーとして高校ラグビー、大学アメリカンフットボール部のチームトレーナー歴、県本部のトレーナー歴
体幹の損傷学	1年	2	4年間、整形外科にて実務経験があり、学校附属接骨院にて3年間の管理柔道整復師としての実務経験がある。
臨床総合学	1年	2	免許取得後に院長として接骨院で3年、教員免許取得後に教育をしながら非常勤にて整形外科に勤務した。また、冬期にはスキー場において毎週土日に救護活動を実施している。
基本評価法	1年	1	整形外科にて診察・整復・固定・検査など医師の指導の下、治療に携わった。
基本的治療法	1年	2	免許取得後に院長として接骨院で3年、教員免許取得後に教育をしながら非常勤にて整形外科に勤務した。また、冬期にはスキー場において毎週土日に救護活動を実施している。
			4年間、整形外科にて実務経験があり、学校附属接骨院にて3年間の管理柔道整復師としての実務経験がある。
			13年間の整形外科病院での実務経験および保健所の立入検査を含めた行政等への法令手続きに従事している。専任教員8年目。
評価と施術学基礎	2年	2	介護施設を経営しており、昨日訓練指導員などの介護職員の指導を行っている。

上肢の損傷学	2年	4	・柔道整復師として病院勤務し、骨折、脱臼、打撲、捻挫、その他軟部組織損傷の治療に携わった。接骨院の管理柔道整復師として外傷、障害の施術に携わった。・柔道整復師養成教育には養成施設の専任教員、短期大学の非常勤講師として外傷学、診察実技・整復実技・固定実技・後療法実技、指導管理等の教育経験がある。・公認アスレチックトレーナーとして高校ラグビー、大学アメリカンフットボール部のチームトレーナー歴、県本部のトレーナー歴
下肢の損傷学	2年	4	・整形外科勤務11年 ・医師の指導のもと、整復、固定の柔道整復業務（整復後にギプス固定を行う。） ・リハビリ業務（評価などを行う。）
頭部の損傷学	2年	1	整形外科病院にて、骨折・脱臼に対する整復や固定、軟部組織損傷に対する固定、手術立合、後療法（理学療法）、チーム医療に携わった経験有り。その後、リハ科チーフとして研修生指導に携わった。接骨院にて、接骨院患者に対する施術経験有り。相撲・柔道を中心としたトレーナー活動経験有り。
体幹の損傷学	2年	1	整形外科病院にて、骨折・脱臼に対する整復や固定、軟部組織損傷に対する固定、手術立合、後療法（理学療法）、チーム医療に携わった経験有り。その後、リハ科チーフとして研修生指導に携わった。接骨院にて、接骨院患者に対する施術経験有り。相撲・柔道を中心としたトレーナー活動経験有り。
基本評価法	2年	3	整形外科病院・接骨院にて骨折・脱臼・軟部組織損傷における整復や固定、後療についての経験を生かして教科書にはない現場の体験談を含めて講義を進めていく。
			・整形外科勤務11年 ・医師の指導のもと、整復、固定の柔道整復業務（整復後にギプス固定を行う。） ・リハビリ業務（評価などを行う。）
基本的治療法	2年	2	・柔道整復師として病院勤務し、骨折、脱臼、打撲、捻挫、その他軟部組織損傷の治療に携わった。接骨院の管理柔道整復師として外傷、障害の施術に携わった。・柔道整復師養成教育には養成施設の専任教員、短期大学の非常勤講師として外傷学、診察実技・整復実技・固定実技・後療法実技、指導管理等の教育経験がある。・公認アスレチックトレーナーとして高校ラグビー、大学アメリカンフットボール部のチームトレーナー歴、県本部のトレーナー歴
			接骨院管理柔道整復師として柔道整復師免許を持ち接骨院に勤務しスポーツ外傷を中心に臨床に携わる。 柔道整復師養成教育には専任教員資格を持ち養成施設の専任教員、非常勤講師、また超音波骨軟組織学会認定講師として超音波観察の教育と指導に携わる。 スポーツ現場においては、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの資格を持ち、高校ハンドボール、実業団ボート部のアスレティックトレーナーをつとめる。また養成校にてトレーナー養成の指導にも携わる。
			整形外科病院・接骨院にて骨折・脱臼・軟部組織損傷における整復や固定、後療についての経験を生かして教科書にはない現場の体験談を含めて講義を進めていく。
臨床的治療法	2年	2	整形外科病院・接骨院にて骨折・脱臼・軟部組織損傷における整復や固定、後療についての経験を生かして教科書にはない現場の体験談を含めて講義を進めていく。
			2000年に整形外科病院へ入職以降、約10年間、患者に対する施術や問診等を行ってきた。

臨床総合学	3年	11	整形外科病院での整復、固定、指導管理など診察補助業務を行っている。 また大学アメリカンフットボール部での救護活動を行っている。
			平成11年4月より平成14年3月まで接骨院に勤務。平成14年4月より他接骨院に勤務。接骨院でみられる様々な外傷に対して施術を行っている。
			平成9年より5年間整形外科病院にて研修を行い、骨折・脱臼の症例を多数経験している。
			整形外科病院リハビリテーション科で4年間勤務
			13年間の整形外科病院での実務経験および保健所の立入検査を含めた行政等への法令手続きに従事している。専科教員8年目。
臨床的治療法	3年	2	・医療機関（病院）で5年以上の実務経験あり。 ・各種スポーツ現場での救護活動の経験が複数回あり。
			柔道整復師の資格取得後、医療機関にて9年間の臨床を経験 柔道救護などスポーツ現場での救護を担当してきた
総合柔道整復演習	3年	3	・平成15年から平成24年まで接骨院勤務 ・平成24年4月に接骨院を開業。現在に至る。
			・医療機関（病院）で5年以上の実務経験あり。 ・各種スポーツ現場での救護活動の経験が複数回あり。
			柔道整復師の資格取得後、医療機関にて9年間の臨床を経験 柔道救護などスポーツ現場での救護を担当してきた



## 第2部

### 科目・実務経験者一覧

基 礎 科 目	6単位
専 門 基 礎 科 目	40単位
専 門 科 目	64単位
合 計	110単位

実施必要単位153単位

## 第2部 基礎科目

科目名	配当学年	単位数	実務経験
体育	3年	2	・体育学士および健康運動指導士として、地域高齢者、一般社会人、高校生、保育園児などを対象とした健康運動指導教室の企画運営経験あり。 ・上級障がい者スポーツ指導員として、障がい者に対する運動指導経験有り。また、障がい者スポーツ指導員（初級・中級）の養成講習会において、トレーニング論を担当し、健康運動指導、トレーニング指導他の指導実績あり。
心理学	1年	2	心療内科および心理判定員において各々3年間の実務経験あり。また児童福祉施設の心理主任として5年間の実務経験あり。
栄養学	1年	2	管理栄養士として大学附属病院で3年間患者の給食準備、栄養管理、栄養指導などを実施していた。その他、大学では栄養学関連の講義を担当している。

## 第2部 専門基礎科目

科目名	配当学年	単位数	実務経験
生理学	3年	3	臨床検査の現場では生理学の知識を基に業務を行っている。具体的には臨床検査技師として、検査センター、プラチラボ、一般病院での実務を経験している。
運動学	2年	2	医療・福祉機関やスポーツ現場においてリハビリテーション治療や運動処方、栄養指導を実施している。
運動学	3年	2	医療・福祉機関やスポーツ現場においてリハビリテーション治療や運動処方、栄養指導を実施している。
病理学	3年	3	医療系の大学で疾病の基本的な知識としての病理学総論の講義、病理診断のための標本作製や細胞診断学の判定の知識や技術習得のための教育、さらに大学病院での実務経験もしている。
一般臨床医学	2年	2	市民病院の外科副部長として勤務経験あり。現在、整形外科病院にて診療に従事している。
一般臨床医学	3年	3	市民病院の外科副部長として勤務経験あり。現在、整形外科病院にて診療に従事している。
外科学	2年	2	日々の一般診療の中で外科系症例に関して経験をしている。
外科学	3年	3	日々の一般診療の中で外科系症例に関して経験をしている。
整形外科	2年	3	整形外科・リハビリテーションにおける一般臨床、特に専門分野では身体障害児・者を対象に臨床・義肢装具の処方及び適合判定を実務とした。又、行政医として公衆衛生・環境衛生・感染症等の健康福祉行並びに地域社会での公的及び民間の諸機関・組織との連携を経験した。尚、短期大学の教育職にも携わった。
整形外科	3年	3	整形外科全般・格闘技（コンタクトスポーツ）を中心としたスポーツ整形外科・骨粗鬆症・関節リウマチを中心に診察しています。バルセロナ・アトランタオリンピックでは、公式チームドクター（柔道）として、選手たちをサポートしてきました。 32年間総合病院に勤務し、一般X線撮影検査、造影検査、CT・MRI検査、核医学検査、放射線治療、第3次救急医療などに携わってきた。
リハビリテーション医学	2年	2	医療福祉センター、医療型児童発達支援センター、小児科クリニックにて様々な障害を持つ(特に中枢神経系)発達障害児(者)に対して作業療法臨床を行っている。
リハビリテーション医学	3年	2	医療福祉センター、医療型児童発達支援センター、小児科クリニックにて様々な障害を持つ(特に中枢神経系)発達障害児(者)に対して作業療法臨床を行っている。



関係法規	1年	2	平成19年4月より整形外科病院での実務経験あり。また、平成24年4月より保健所による立入検査や地方厚生局による適時調査を含めた行政等への法令手続きに従事している。平成26年4月より米田柔整専門学校 講師就任。
関係法規	2年	2	13年間の整形外科病院での実務経験および保健所の立入検査を含めた行政等への法令手続きに従事している。専科教員8年目。
柔道	1年	2	週4回の柔道部、週2回の少年柔道の指導を行う。
柔道	2年	2	昭和52年(1977年)、地域の柔道育英会(スポーツ少年団含む)設置。 現在に至るまで未就学児～一般手で柔道指導に携わる。平成6年(1994年)柔道整復科教員資格取得、平成11年(1999年)4月より米田柔整専門学校夜間部に於いて非常勤講師として柔道の授業を担当する。現在、公認指導者資格及顧問審判資格を有し、各種大会審判及大会等の運営企画等を行う。
柔道	3年	1	H9～H29まで、柔道クラブなどの指導員、米田柔整専門学校柔道特練監督、愛知県武道館夜間講師などに携わり、H30に柔道クラブを設立。現在に至るまでに未就学児～一般までの指導を経験している。H21に柔道整復科専科教員資格取得後、現在に至るまで米田柔整専門学校にて柔道の授業を担当している。その他、公認指導者資格や審判資格を有し各種大会審判、月次試験係員等を行う。 平成7年3月、日本体育大学を卒業し、保健体育教員一種免許状取得。平成11年4月より米田柔整専門学校夜間部において非常勤講師として柔道の授業を担当。平成15年4月より米田柔整専門学校の教務として柔道の授業を担当。平成16年に柔道整復科教員資格取得。平成21年4月より米田柔道瀬陰門学校夜間部において非常勤講師として柔道の授業を担当。現在、指導者資格B指導員を有し学生に指導を行う。
関係法規 (社会保障制度)	2年	1	13年間の整形外科病院での実務経験および保健所の立入検査を含めた行政等への法令手続きに従事している。専科教員8年目。

## 第2部 専門科目

科目名	配当学年	単位数	実務経験
運動器学	1年	8	卒後6年、接骨院にて勤務。専任教員7年目。
			接骨院および学校専任教員として、10年以上の実務経験。現在、接骨院の院長として7年目の実務にあたっている。
			・柔道整復師として病院勤務し、骨折、脱臼、打撲、捻挫、その他軟部組織損傷の治療に携わった。接骨院の管理柔道整復師として外傷、障害の施術に携わった。・柔道整復師養成教育には養成施設の専任教員、短期大学の非常勤講師として外傷学、診察実技・整復実技・固定実技・後療法実技、指導管理等の教育経験がある。・公認アスレチックトレーナーとして高校ラグビー、大学アメリカンフットボール部のチームトレーナー歴、県本部のトレーナー歴
			4年間、整形外科にて実務経験があり、学校附属接骨院にて3年間の管理柔道整復師としての実務経験がある。
骨・関節損傷学基礎	1年	2	4年間、整形外科にて実務経験があり、学校附属接骨院にて3年間の管理柔道整復師としての実務経験がある。
軟部組織損傷学基礎	1年	2	免許取得後に院長として接骨院で3年、教員免許取得後に教育をしながら非常勤にて整形外科に勤務した。また、冬期にはスキー場において毎週土日に救護活動を実施している。
評価と施術学基礎	1年	2	4年間、整形外科にて実務経験があり、学校附属接骨院にて3年間の管理柔道整復師としての実務経験がある。
上肢の損傷学	1年	4	週5コマの柔道授業、週4回の専門学校柔道部稽古、週2回少年柔道稽古の中で外傷の応急処置や復帰のケアを行っている。試合や出稽古の際にも外傷の応急処置を行う。
下肢の損傷学	1年	4	平成19年4月より整形外科病院での実務経験あり。 平成26年4月より米田柔整専門学校 講師就任。
			・柔道整復師として病院勤務し、骨折、脱臼、打撲、捻挫、その他軟部組織損傷の治療に携わった。接骨院の管理柔道整復師として外傷、障害の施術に携わった。・柔道整復師養成教育には養成施設の専任教員、短期大学の非常勤講師として外傷学、診察実技・整復実技・固定実技・後療法実技、指導管理等の教育経験がある。・公認アスレチックトレーナーとして高校ラグビー、大学アメリカンフットボール部のチームトレーナー歴、県本部のトレーナー歴
体幹の損傷学	1年	2	4年間、整形外科にて実務経験があり、学校附属接骨院にて3年間の管理柔道整復師としての実務経験がある。
臨床総合学	1年	2	免許取得後に院長として接骨院で3年、教員免許取得後に教育をしながら非常勤にて整形外科に勤務した。また、冬期にはスキー場において毎週土日に救護活動を実施している。
基本評価法	1年	1	4年間、整形外科にて実務経験があり、学校附属接骨院にて3年間の管理柔道整復師としての実務経験がある。
基本的治療法	1年	2	免許取得後に院長として接骨院で3年、教員免許取得後に教育をしながら非常勤にて整形外科に勤務した。また、冬期にはスキー場において毎週土日に救護活動を実施している。
			4年間、整形外科にて実務経験があり、学校附属接骨院にて3年間の管理柔道整復師としての実務経験がある。
			13年間の整形外科病院での実務経験および保健所の立入検査を含めた行政等への法令手続きに従事している。専任教員8年目。
評価と施術学基礎	2年	2	整形外科にて診察・整復・固定・検査など医師の指導の下、治療に携わった。

上肢の損傷学	2年	4	・柔道整復師として病院勤務し、骨折、脱臼、打撲、捻挫、その他軟部組織損傷の治療に携わった。接骨院の管理柔道整復師として外傷、障害の施術に携わった。・柔道整復師養成教育には養成施設の専任教員、短期大学の非常勤講師として外傷学、診察実技・整復実技・固定実技・後療法実技、指導管理等の教育経験がある。・公認アスレチックトレーナーとして高校ラグビー、大学アメリカンフットボール部のチームトレーナー歴、県本部のトレーナー歴
下肢の損傷学	2年	4	・整形外科勤務11年 ・医師の指導のもと、整復、固定の柔道整復業務（整復後にギプス固定を行う。） ・リハビリ業務（評価などを行う。）
頭部の損傷学	2年	1	整形外科にて骨折・脱臼に対する整復や固定、軟部組織損傷に対する固定・スポーツ復帰までの後療法に携わった経験あり。
体幹の損傷学	2年	1	整形外科にて骨折・脱臼に対する整復や固定、軟部組織損傷に対する固定・スポーツ復帰までの後療法に携わった経験あり。
基本評価法	2年	3	整形外科病院・接骨院にて骨折・脱臼・軟部組織損傷における整復や固定、後療についての経験を生かして教科書にはない現場の体験談を含めて講義を進めていく。
			・整形外科勤務11年 ・医師の指導のもと、整復、固定の柔道整復業務（整復後にギプス固定を行う。） ・リハビリ業務（評価などを行う。）
基本的治療法	2年	2	・柔道整復師として病院勤務し、骨折、脱臼、打撲、捻挫、その他軟部組織損傷の治療に携わった。接骨院の管理柔道整復師として外傷、障害の施術に携わった。・柔道整復師養成教育には養成施設の専任教員、短期大学の非常勤講師として外傷学、診察実技・整復実技・固定実技・後療法実技、指導管理等の教育経験がある。・公認アスレチックトレーナーとして高校ラグビー、大学アメリカンフットボール部のチームトレーナー歴、県本部のトレーナー歴
			整形外科病院・接骨院にて骨折・脱臼・軟部組織損傷における整復や固定、後療についての経験を生かして教科書にはない現場の体験談を含めて講義を進めていく。
臨床的治療法	2年	2	整形外科病院・接骨院にて骨折・脱臼・軟部組織損傷における整復や固定、後療についての経験を生かして教科書にはない現場の体験談を含めて講義を進めていく。
			2000年に整形外科病院へ入職以降、約10年間、患者に対する施術や問診等を行ってきた。
臨床総合学	3年	11	整形外科病院での整復、固定、指導管理など診察補助業務を行っている。 また大学アメリカンフットボール部での救護活動を行っている。
			平成11年4月より平成14年3月まで接骨院に勤務。平成14年4月より他接骨院に勤務。接骨院でみられる様々な外傷に対して施術を行っている。
			平成9年より5年間整形外科病院にて研修を行い、骨折・脱臼の症例を多数経験している。
			平成19年4月～平成24年3月：整形外科病院にて勤務 平成24年4月～平成26年3月：整形外科クリニックにて勤務 平成26年4月～現在：接骨院にて勤務
			13年間の整形外科病院での実務経験および保健所の立入検査を含めた行政等への法令手続きに従事している。専科教員8年目。

臨床的治療法	3年	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関（病院）で5年以上の実務経験あり。</li> <li>・各種スポーツ現場での救護活動の経験が複数回あり。</li> </ul> <p>柔道整復師の資格取得後、医療機関にて9年間の臨床を経験 柔道救護などスポーツ現場での救護を担当してきた</p>
総合柔道整復演習	3年	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成15年から平成24年まで接骨院勤務</li> <li>・平成24年4月に接骨院を開業。現在に至る。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関（病院）で5年以上の実務経験あり。</li> <li>・各種スポーツ現場での救護活動の経験が複数回あり。</li> </ul> <p>柔道整復師の資格取得後、医療機関にて9年間の臨床を経験 柔道救護などスポーツ現場での救護を担当してきた</p>



教育内容	指定 単位	授業科目	1学年		2学年		3学年		計		
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	基礎Ⅰ	英語	2	30					2	30
			社会学	2	30					2	30
			体育					2	30	2	30
		基礎Ⅱ	心理学	2	30					2	30
			栄養学	2	30					2	30
			生物学	4	60					4	60
	小計		12	180			2	30	14	210	
計	14		12	180			2	30	14	210	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学	4	60	4	60	4	60	12	180	
		生理学	4	60	4	60	4	60	12	180	
		運動学			2	30	2	30	4	60	
		小計		8	120	10	150	10	150	28	420
	疾病と傷害	病理学概論			2	30	3	45	5	75	
		一般臨床医学			2	30	3	45	5	75	
		外科学概論			2	30	3	45	5	75	
		整形外科学			3	45	1	15	4	60	
		衛生学					3	45	3	45	
		リハビリテーション医学			2	30	2	30	4	60	
	小計				11	165	15	225	26	390	
	保健医療福祉と柔道 整復の理念	2	整形外科学					2	30	2	30
	小計						2	30	2	30	
	保健医療福祉と柔道 整復の理念	8	公衆衛生学			2	30			2	30
			関係法規	2	30	2	30			4	60
			柔道	2	60	2	60	1	40	5	160
			小計	4	90	6	120	1	40	11	250
社会保障制度	1	関係法規			1	15			1	15	
		小計			1	15			1	15	
計	37		12	210	28	450	28	445	68	1105	
専門分野	基礎柔道整復学	運動器総論	8	120					8	120	
		骨・関節損傷学基礎	2	30					2	30	
		軟部組織損傷学基礎	2	30					2	30	
		評価と施術学基礎	2	30	2	30			4	60	
		小計	14	210	2	30			16	240	
	臨床柔道整復学	17	上肢の損傷	4	60	4	60			8	120
			下肢の損傷	4	60	4	60			8	120
			頭部の損傷			1	15			1	15
			体幹の損傷	2	30	1	15			3	45
			総合臨床	2	30			12	180	14	210
			小計	12	180	10	150	12	180	34	510
	柔道整復実技	17	基本評価法	1	30	3	90			4	120
			基本的治療法	2	60	2	60			4	120
			臨床的治療法			2	60	3	90	5	150
			総合柔道整復演習					4	120	4	120
			小計	3	90	7	210	7	210	17	510
	臨床実習	4	臨床実習	1	45	2	90	1	45	4	180
小計			1	45	2	90	1	45	4	180	
計	48		30	525	21	480	20	435	71	1440	
合計	99		54	915	49	930	50	910	153	2755	